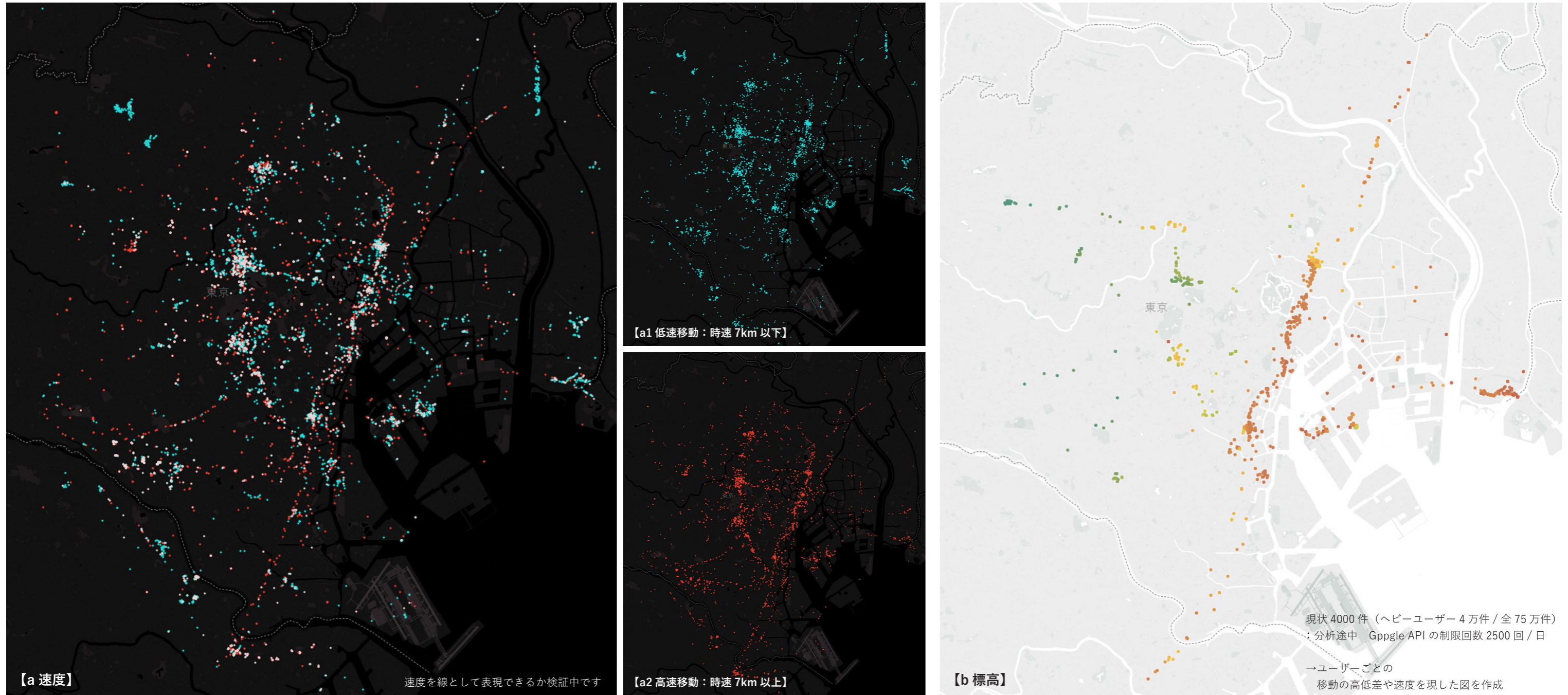


keyword: ソーシャルメディア、GPS 位置情報、マッピング、情報発信拠点、都市の移動空間（速度や高低差、密度等）、空間的相互作用



《研究背景》

日本において、SNS のひとつである、Twitter は約 3000 万ものアカウントがあり、東京は世界最大規模の Tweet 数を誇る都市である。Twitter の利用者は年代的に偏りがみられ、若年層 (15-39 歳) が 60% を占める。若年層の人口が、総人口の 30% であることを考えるとかなりの割合といえる。

個人の感情、居場所、発見が、ソーシャルメディアによって、GPS 位置情報とともに、発信されると同時に、その大量の個人の情報発信の蓄積 (ビックデータ) を利用した可視化手法が多く試みられるようになった。

《研究目的》

本研究では、移動情報ビックデータを用い、人々の都市における移動の様子を分析し、その移動量を地図上に可視化することを目的とする。そのうえで、場所のネットワーク性、空間的相互作用について考察を行いたい。

《展望》

移動の速度と量を示した地図ができることで、その都市空間の特性を把握することが可能となる。情報発信拠点がどのようなルート、環境的要素でネットワーク化される潜在力があるかどうか分かっていくことだろう。

【データリソース】
 解析対象 : Twitter (ランダムに抽出したアカウントの時間・位置情報データ)
 範囲 : 東京 23 区全域 (経度 139.60-139.90, 緯度 35.50-35.80)
 位置情報数: 748419 件
 期間 : 2010.1.1. - 2012.5.31.
 [取得したデータ種類]
 ①アカウント No. (ランダムに抽出したアカウントを番号付けたもの)
 ②時間 (年:日:時:分:秒)
 ③緯度経度

【マッピング】
 1) 定量的分析 → 2) 定性的分析
 a 距離・速度 e 空間的相互作用
 b 高低差 f 地域比較
 c 密度分布 g ...